
COVID19 対策が職員のストレスに与える影響

医療法人衆和会 長崎腎病院

○手島和代 林田征俊 白井美千代 丸山祐子 船越 哲

【背景・目的】

当院の労働衛生管理で定期的に行っている職業性ストレス調査票において、過去 2 年間の結果と比べると 2020 年 9 月の調査で高ストレス者の割合が増加した。部署別に調査すると看護部の高ストレス者が顕著に増加している。新型コロナ禍において、当院でも COVID-19 対策をガイドラインに準拠した厳格な感染対を行っている。人員配置や業務内容の変化がみられる中、業務から来るストレスの傾向が「新型コロナウイルス感染症への対策・取組、感染症への不安」により、どのように変化したかを調査する。

【対象・方法】

全職員を対象とした過去 3 年間(2018~2020)の職業性ストレス調査票を集計・分析する。

【結果】

2020 年調査で特異的な点は、「ストレスの原因と考えられる因子」のうち「職場環境によるストレス」が有意に低下 ($p=0.0102$)した。一方、「ストレスによっておこる心身の反応」の「不安感」が有意に上昇 ($p=0.0188$)し、また「身体愁訴」が有意に上昇 ($p<0.001$)した。

【考察】

過去 3 年間で「職場環境によるストレス」が低下しているのは、就業者と組織の努力の成果である可能性がある。一方、2020 年で COVID-19 流行以外の就業環境は変わっていないことより、結論付けることは難しいが、「不安感」・「身体愁訴」の増加は、メディアからの情報による影響に加えて、職場の感染対策により COVID-19 感染が現実味を帯びていることが推測される。